

偽誤情報と陰謀論の交錯

— 2024 年トランプ銃撃事件を事例に —

小川凜 (OGAWA Rin)

Keywords : 陰謀論、偽誤情報、ドナルド・トランプ、2024 年大統領選挙キャンペーン

1 目的

本研究の目的は、偽誤情報(misinformation/disinformation)や陰謀論(conspiracy theory)が、しばしば同一視される昨今、「陰謀論に変容する偽誤情報」には、どのような特性があり、どのような形で陰謀論に変容するのか、また「偽誤情報の枠から漏れ出た陰謀論」にはどのような特性があり、それは偽誤情報とどのように異なる特徴なのかを分析することから、曖昧とされる偽誤情報と陰謀論の関係性を明らかにする。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、2024 年大統領選挙中に起きたトランプ暗殺未遂事件で生成された言説を事例に、偽誤情報と陰謀論の定義を踏まえた上で、比較検討する。7 月 13 日、ペンシルベニア州で開催された選挙集会中にトランプが銃撃を受けた暗殺未遂事件は偽誤情報や陰謀論の温床となった。ここでは、この事件の偽誤情報や陰謀論にまつわる 4 つの言説を分析する。

3 結果

調査・分析した結果、まず「トランプが『安倍さんの声が聞こえた』と言った」言説は、陰謀論ではなく誤情報である。次に、シークレットサービスにまつわる言説は陰謀論が偽情報として扱われた。3 つ目は、ジョー・バイデン当時アメリカ大統領や民主党陣営の関与にまつわる言説は、偽誤情報の枠から漏れ出た陰謀論に位置付けられる。最後の 4 つ目のトランプの自作自演説は、偽誤情報が陰謀論に発展したものと位置付けられることがわかった。

4 結論

以上より、偽誤情報が陰謀論に変容するプロセスには、(1)情報の意図的な操作、(2)既存の政治的ナラティブとの親和性、(3)信憑性を高めるための証拠の付与という要素が関与することが明らかとなった。また、「偽誤情報の枠から漏れ出た陰謀論」は、情報の真偽を問わずして「裏の真実」として広まり、特定の政治的立場や既存の不信感を前提として拡散されることがわかった。さらに、偽誤情報の一部として提示することは、陰謀論者にとって「メディアは真実を隠蔽している証拠」として逆効果を生むことにつながってしまう。今後は、陰謀論を偽誤情報として扱う弊害なども踏まえながら、より一層、偽誤情報と陰謀論の区別をより明確にすることが求められる。

【主要参考文献】

- Douglas, K. M., & Sutton, R. M. (2023). What are conspiracy theories? A definitional approach to their correlates, consequences, and communication. *Annual review of psychology*, 74(1), 271-298.
- Hofstadter R. (1965). *The Paranoid Style in American Politics and Other Essays*. New York: Alfred A. Knopf.
- Keeley, B. L. (1999). Of Conspiracy Theories. *The Journal of Philosophy*, 96(3), 109-126.